

米の需給見通しについて

令和 8 年 3 月
農 林 水 産 省
農 産 局

目 次

○ 需給の変動に柔軟に対応できるR7/8年以降の需給見通しの策定について	2
○ 今回の需給見通しの変更（案）のポイント	3
○ 令和7年産主食用米の収穫量	4
○ 水田における作付意向について（令和8年産第1回中間的取組状況（令和8年1月末時点））	5
○ 令和7/8年の主食用米等の需要見通しの算出（見直し）	10
○ 令和7/8年の主食用米等の需要見通しの算出	11
○ とう精数量実績に基づく、R7/8年の1人当たり消費量の補正	12
○ 精米事業者のとう精数量実績調査結果（精米歩留り）について	13
○ 令和8/9年の主食用米等の需要見通しの算出	14
○ インバウンド需要の増加	15
○ 民間貿易による輸入状況（枠外輸入）	16
○ SBS米の輸入状況	17

需給の変動に柔軟に対応できるR7/8年以降の需給見通しの策定について

R7/8需給見通し

<10～11月>

- 需要見通し：人口減少や直近の1人当たり精米ベースの消費量の実績、インバウンド需要の動向、精米歩留りを考慮して幅で設定。これを検証するものとして、とう精数量・精米歩留りの実績を踏まえた需要量の推計を行う。
- 生産見通し：R7年産予想収穫量（9月25日現在）を踏まえて変更。

<3月>

- 需要見通し：上記の考え方を踏襲しつつ、家計調査等により需要量の変動やその要因の変化を極力把握し、逐次変更。
- 生産見通し：R7年産収穫量（確報）（2月下旬）を反映。
- いずれも、約半年分の精米歩留りの実績を反映。

R8/9需給見通し

<10～11月>

- 需要見通し：R7/8の需要見通しの算定（上記）の考え方を踏襲して設定。
- 生産見通し：需要に応じた生産を図るため、R7年産予想収穫量（9月25日現在）を踏まえつつ、需要見通しに対して余裕を持って設定。

<3月>

- 需要見通し：上記の考え方を踏襲しつつ、家計調査等により需要量の変動やその要因の変化を極力把握し、逐次変更。
- 生産見通し：需要に応じた生産を図るため、R7年産収穫量（確報）を踏まえつつ、需要見通しに対して余裕を持って設定。
- 需要見通し、生産見通しは、いずれも約半年分の精米歩留りの実績（2月頃）を反映。

R9/10需給見通し以降

<7月>

- 需要見通し：とう精数量・精米歩留りの実績を踏まえた推計を充実させ、この推計をベースに算定する方向で検討。また、緊急調査を踏まえた生産・流通・消費の実態把握で得られた情報などを反映することを検討。
- 生産見通し：需要に応じた生産を図り、需要見通しに対して余裕を持って設定。

※ 需要見通し・生産見通しはいずれも玄米ベースに加え、精米ベースでも設定。

※ 生産・消費の最新の動向に応じて、需給見通しの各数値に適宜反映させる。

※ 民間輸入米は、本年6・7月で約4.7万トンと昨年比で大きく増加。仮にこのまま推移すれば、国産主食用米の需要量を減少させる可能性があるため、引き続き状況を注視。

今回の需給見通しの変更（案）のポイント

前回（10月31日）

今回

I

令和7/8年の主食用米等の需給見通し

		(万玄米ト)	(万精米ト)
令和7年6月末民間在庫量	A	155	138
令和7年産主食用米等生産量	B=C+D	748	662~670
うち生産者ふるい目幅以上	C	715	
うち生産者ふるい目幅未満のうち、主食用への供給見込量	D	32	
令和7/8年政府備蓄米供給量	E	23	21
令和7/8年主食用米等供給量計	F=A+B+E	926	822~829
令和7/8年主食用米等需要量	G	697~711	624~631
令和8年6月末民間在庫量	H=F-G	215~229	191~205

変動の要因①

収穫量の確定値、最新の精米歩留りに更新

①

変動の要因② (需要量への影響)

(A)直近のとう精実績を踏まえた一人当たり消費量の補正による影響
(▲11~▲6万トン)
(B)人口増加による影響
(+0.2万トン)
(C)精米歩留りの更新による影響
(▲1~+5万トン)

②

③

	(万玄米ト)	(万精米ト)
令和7年6月末民間在庫量	155	138
令和7年産主食用米等生産量	747	663
うち生産者ふるい目幅以上	718	
うち生産者ふるい目幅未満のうち、主食用への供給見込量	29	
令和7/8年政府備蓄米供給量	23	21
令和7/8年主食用米等供給量計	925	823
令和7/8年主食用米等需要量	691~704	614~626
令和8年6月末民間在庫量	221~234	197~208

- 令和8年1月末時点の主食用米の作付意向（136.1万ha）、備蓄米の作付意向（1.4万ha）。
- 1.7mmふるい目幅の直近5中3年平均の単収（538kg/10a）で計算すると、令和8年産の生産量は、主食用米732万玄米トン、備蓄米8万玄米トンに相当。
- 令和8年産備蓄米について、21万玄米トン全量を買入れた場合の主食用米生産量は719万玄米トンに相当。
[732万ト - (21万ト - 8万ト)]

II

令和8/9年の主食用米等の需給見通し

		(万玄米ト)	(万精米ト)
令和8年6月末民間在庫量	H	215~229	191~205
令和8年産主食用米等生産量	I	711	630~637
令和8/9年主食用米等供給量計	J=H+I	926~939	821~841
令和8/9年主食用米等需要量	K	694~711	622~630
令和9年6月末民間在庫量	L=J-K	215~245	191~220

変動の要因④

⑤に伴う8/9年需要量見通しの上位値、最新の精米歩留りを踏まえ更新

④

変動の要因⑤ (需要量への影響)

(A)人口増加による影響
(+0.2万トン)
(B)精米歩留りの更新による影響
(0~+1.4万トン)

⑤

⑥

	(万玄米ト)	(万精米ト)
令和8年6月末民間在庫量	221~234	197~208
令和8年産主食用米等生産量	711	630~635
令和8/9年主食用米等供給量計	932~945	826~844
令和8/9年主食用米等需要量	696~711	622~630
令和9年6月末民間在庫量	221~249	196~222

作付意向調査(令和8年1月末時点)を踏まえた見通し

	(万玄米ト)	(万精米ト)
令和8年6月末民間在庫量	221~234	197~208
令和8年産主食用米等生産量	719~732	637~654
令和8/9年主食用米等供給量計	940~966	834~863
令和8/9年主食用米等需要量	696~711	622~630
令和9年6月末民間在庫量	229~271	204~241

※ 1 事前契約による令和8年産備蓄米の政府買入れは21万玄米トを予定。これは上記「令和8年産主食用米等生産量」には含まれていない。

※ 2 政府備蓄米の放出（全体で約59万玄米ト）に係る買戻し及び買入れは、今後の需給状況等を見定めた上で行う。

注1:ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

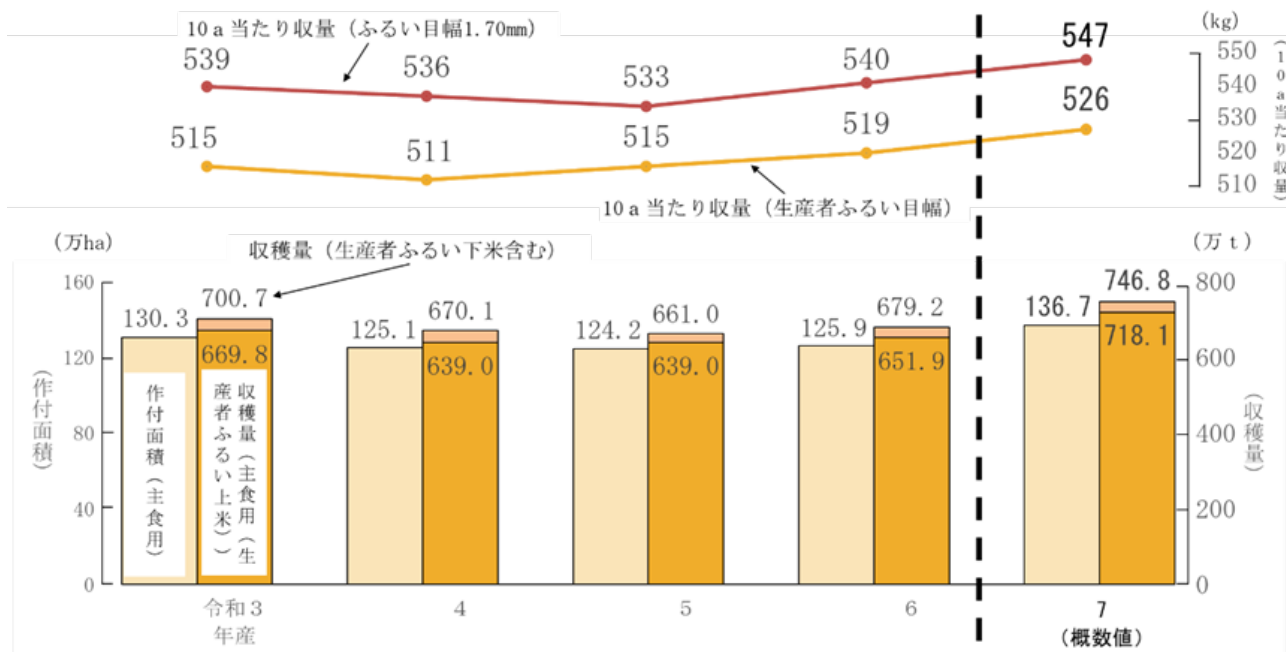
注2:上記の見通しは、国内で生産された主食用米等の需給見通しであり、SBS方式や枠外の民間輸入による輸入米は含まれない。

注3:需給の見通しについては、今後の生産量や需要量の変動の把握に努め、必要に応じて柔軟に対応。

令和7年産主食用米の収穫量

- 令和7年産の水稻の生産者が使用しているふるい目幅(1.80mm~1.90mm)ベースの収穫量(主食用)は718.1万トンで、前年産に比べ66.2万トン増加と見込まれる。これは、
 - ① 作付面積(主食用)が、新規需要米や備蓄米等からの転換等があったため、136.7万haで、前年産に比べ10.8万ha増加となったことに加え、
 - ② 全国の10a当たり収量(生産者が使用しているふるい目幅ベース)は、一部地域で5月上旬から6月中旬にかけての気温や日照時間が前年を下回る地域があったものの、多くの地域で総じて天候に恵まれたため、526kgで、前年産に比べ7kg増加と見込まれるためである。
- 令和7年産の水稻のふるい目幅1.70mmベースの収穫量(主食用)は746.8万トンで、前年産に比べ67.6万トン増加と見込まれる。

【水稻の作付面積（主食用）、10a 当たり収量及び収穫量の推移（全国）】



資料：農林水産省大臣官房統計部「作物統計調査 令和7年産水陸稲の収穫量」

- 注：1 作付面積（主食用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
- 2 10a 当たり収量（生産者ふるい目幅）及び収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は、生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 3 10a 当たり収量（ふるい目幅1.70mm）及び収穫量（生産者ふるい下米含む）は、ふるい目幅1.70mmで選別された玄米の重量である。

水田における作付意向について（令和8年産第1回中間的取組状況（令和8年1月末時点））①

- 農林水産省では、産地・生産者が主体的に作付けを判断し、需要に応じた生産・販売を行うことができるよう、都道府県別の作付意向を聞き取り、公表。
- 令和8年1月末時点の主食用米の作付意向は、136.1万ha（対前年0.6万ha減）。備蓄米が1.4万ha（対前年1.4万ha増）。合計すれば対前年0.8万ha増。（平均単収（538kg/10a）で計算すると主食用米732万トン、備蓄米8万トンに相当）
- 本調査結果等も踏まえ、産地・生産者が主体的に作付けを判断し、令和8年6月30日（火曜日）までに、生産者から地域農業再生協議会に営農計画書等が提出されることから、作付意向は今後変動が見込まれる。

【主食用米、備蓄米及び戦略作物の作付状況】

（万ha）

年 産	主食用米	備蓄米	戦略作物								
			加工用米	新規需要米	新市場開拓用米（輸出用米等）	米粉用米	飼料用米	WCS用稲（稲発酵粗飼料用稲）	麦	大豆	合計
R4年産	125.1	3.6	5.0	20.6	0.7	0.8	14.2	4.8	10.6	8.9	45.1
R5年産	124.2	3.5	4.9	20.4	0.9	0.8	13.4	5.3	10.5	8.8	44.5
R6年産	125.9	3.0	5.0	17.3	1.1	0.6	9.9	5.6	10.3	8.4	41.1
R7年産	136.7	—	4.4	10.8	0.9	0.4	4.6	4.9	9.5	7.5	32.1
R8年産 （1月末時点）	136.1	1.4	4.3	10.2	0.9	0.4	4.1	4.8	9.1	7.3	31.0
対前年差	-0.6	1.4	-0.1	-0.5	0.0	0.0	-0.5	-0.1	-0.4	-0.2	-1.2

注1：主食用米、備蓄米及び戦略作物の8年産意向は、地方農政局等が1月末時点で都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（麦・大豆は基幹作の面積）。

2：主食用米の7年産以前の実績は、統計部公表の主食用米の作付面積。

3：備蓄米は、7年産の入札を中止。6年産以前の実績は、地域農業再生協議会が把握した面積。

4：加工用米及び新規需要米（新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲）の6年産以前の実績は、取組計画の認定面積。7年産は取組計画の届出面積。

5：麦及び大豆の7年産以前の実績は、地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。

6：単位未満で四捨五入しているため、表記上の数値による計算結果と一致しない場合がある。

水田における作付意向について（令和8年産第1回中間的取組状況（令和8年1月末時点））②

【全国・北海道・東北・北陸】

単位：千ha

都道府県	主食用米			備蓄米		戦略作物																	
						加工用米		新規需要米		新市場開拓用米 (輸出用米等)		米粉用米		飼料用米		WCS用稲 (稲発酵粗飼料用稲)		麦		大豆		合計	
	R7実績	R8意向	対前年実績	R6実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向		
全国計	136.7万	136.1万		30.0	14.1	44.2	43.3	107.5	102.4	9.0	9.2	3.5	3.7	46.0	41.4	48.9	47.9	94.8	90.9	74.9	73.0	321.4	309.5
北海道	90.4	90.3	→	1.8	1.7	8.1	8.4	7.6	6.1	2.1	2.2	0.1	0.1	2.3	1.1	3.0	2.7	29.7	28.0	14.8	13.5	60.1	56.0
青森	43.7	44.7	↗	4.0	0.3	0.3	0.4	5.2	4.0	0.3	0.3	0.0	0.0	4.2	3.0	0.7	0.7	0.5	0.5	4.3	4.2	10.3	9.0
岩手	46.9	46.7	→	0.6	0.6	0.8	0.8	5.3	5.1	0.4	0.4	0.0	0.0	2.9	2.7	2.0	1.9	3.3	3.2	3.7	3.6	13.1	12.7
宮城	65.3	64.0	↘	2.2	1.9	1.8	1.4	6.5	6.2	0.8	0.8	0.1	0.1	3.3	3.0	2.3	2.3	2.2	2.0	8.6	8.7	19.1	18.2
秋田	81.2	80.4	→	2.7	0.8	5.6	5.6	2.5	2.3	0.5	0.4	0.2	0.1	0.8	0.8	1.0	1.0	0.1	0.1	7.3	7.2	15.5	15.2
山形	57.1	55.2	↘	3.4	2.6	4.7	4.5	4.8	4.5	0.5	0.4	0.1	0.0	3.1	2.8	1.2	1.2	0.1	0.1	4.0	3.9	13.7	13.0
福島	67.0	65.9	↘	5.6	1.4	0.9	0.8	2.4	2.4	0.1	0.1	0.0	0.0	1.4	1.4	0.9	0.9	0.4	0.4	0.8	0.8	4.5	4.3
新潟	108.6	105.2	↘	4.7	3.1	6.6	6.8	4.2	4.8	1.5	1.7	0.7	0.9	1.3	1.5	0.6	0.7	0.2	0.2	3.3	3.5	14.4	15.3
富山	33.7	34.0	→	1.8	0.5	1.3	1.3	2.6	2.4	0.4	0.4	0.3	0.3	1.5	1.3	0.5	0.5	2.9	2.5	3.6	3.3	10.4	9.5
石川	22.1	22.2	→	0.2	0.4	0.6	0.6	0.4	0.4	0.0	0.0	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	1.1	0.8	0.8	0.8	2.9	2.6
福井	23.3	23.1	→	0.7	0.7	0.8	0.6	1.3	1.4	0.3	0.3	0.1	0.1	0.9	0.8	0.1	0.1	5.0	4.2	0.0	0.1	7.2	6.2

- 注1：主食用米の7年産実績は、統計部公表の主食用米の作付面積。
 2：主食用米、備蓄米及び戦略作物の8年産意向は、地方農政局等が1月末時点で都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（麦・大豆は基幹作の面積）。
 3：主食用米の対前年実績は、7年産実績と比較し、「↗：増加傾向」（1%超増加）、「→：前年並み」（増減1%以内）、「↘：減少傾向」（1%超減少）で分類。
 4：備蓄米は、7年産の入札を中止。
 5：加工用米及び新規需要米（新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲）の7年産実績は、取組計画の届出面積。
 6：麦・大豆の7年産実績は、地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。
 7：戦略作物の8年産意向の数値は、7年産実績と比較し、「赤：増加傾向」（1%超増加）、「黒：前年並み」（増減1%以内）、「緑：減少傾向」（1%超減少）で分類。

水田における作付意向について（令和8年産第1回中間的取組状況（令和8年1月末時点））③

【関東・東海】

単位：千ha

都道府県	主食用米			備蓄米		戦略作物																	
						加工用米		新規需要米		新市場開拓用米 (輸出用米等)		米粉用米		飼料用米		WCS用稲 (稲発酵粗飼料用稲)		麦		大豆		合計	
	R7実績	R8意向	対前年実績	R6実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向
茨城	66.7	67.1	→	0.1	0.0	1.1	1.0	5.7	5.4	0.9	0.9	0.1	0.1	4.2	3.8	0.5	0.5	3.6	3.5	0.7	0.7	11.0	10.5
栃木	58.1	58.1	→	1.1	-	1.7	1.7	7.2	7.2	0.0	0.1	0.2	0.2	5.0	5.0	2.0	1.9	6.6	6.6	0.4	0.4	15.9	15.8
群馬	14.7	14.7	→	-	-	0.2	0.2	0.9	0.9	0.0	0.0	0.1	0.1	0.2	0.2	0.6	0.6	1.4	1.4	0.1	0.1	2.6	2.7
埼玉	30.6	30.6	→	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	1.2	0.0	0.0	0.3	0.3	0.8	0.8	0.1	0.1	2.2	2.3	0.3	0.3	3.8	3.8
千葉	53.1	53.3	→	0.1	0.0	1.5	1.4	3.2	3.1	0.1	0.1	0.0	0.1	2.1	2.0	1.0	0.9	0.4	0.4	0.2	0.2	5.3	5.0
東京	0.1	0.1	→	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川	2.8	2.8	→	-	-	-	-	0.0	0.0	-	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
山梨	4.6	4.6	→	-	-	0.1	0.1	0.1	0.1	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2
長野	30.0	30.0	→	0.2	-	0.4	0.5	0.6	0.6	0.2	0.2	0.0	0.0	0.1	0.1	0.2	0.2	2.3	2.2	0.6	0.5	3.9	3.7
岐阜	20.8	21.1	↗	0.1	-	1.0	0.8	2.1	1.9	0.1	0.1	0.1	0.1	1.7	1.5	0.3	0.3	3.6	3.6	0.2	0.2	6.9	6.6
静岡	14.7	14.8	→	0.0	-	0.0	0.0	0.6	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.0	0.0	0.8	0.8
愛知	25.7	25.8	→	0.1	-	0.5	0.5	1.4	1.4	0.0	0.0	0.3	0.3	1.0	0.9	0.1	0.1	5.6	5.5	0.0	0.0	7.6	7.4
三重	25.7	25.4	↘	-	-	0.1	0.1	1.3	1.3	0.1	0.1	0.0	0.0	0.9	0.9	0.3	0.3	6.7	6.7	0.1	0.1	8.2	8.2

- 注1：主食用米の7年産実績は、統計部公表の主食用米の作付面積。
 2：主食用米、備蓄米及び戦略作物の8年産意向は、地方農政局等が1月末時点で都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（麦・大豆は基幹作の面積）。
 3：主食用米の対前年実績は、7年産実績と比較し、「↗：増加傾向」（1%超増加）、「→：前年並み」（増減1%以内）、「↘：減少傾向」（1%超減少）で分類。
 4：備蓄米は、7年産の入札を中止。
 5：加工用米及び新規需要米（新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲）の7年産実績は、取組計画の届出面積。
 6：麦・大豆の7年産実績は、地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。
 7：戦略作物の8年産意向の数値は、7年産実績と比較し、「赤：増加傾向」（1%超増加）、「黒：前年並み」（増減1%以内）、「緑：減少傾向」（1%超減少）で分類。

水田における作付意向について（令和8年産第1回中間的取組状況（令和8年1月末時点））④

【近畿・中国】

単位：千ha

都道府県	主食用米			備蓄米		戦略作物																	
						加工用米		新規 需要米		新市場 開拓用米 (輸出用米等)		米粉 用米		飼料 用米		WCS用稲 (稲発酵粗 飼料用稲)		麦		大豆		合計	
	R7 実績	R8 意向	対前年 実績	R6 実績	R8 意向	R7 実績	R8 意向	R7 実績	R8 意向	R7 実績	R8 意向	R7 実績	R8 意向	R7 実績	R8 意向	R7 実績	R8 意向	R7 実績	R8 意向	R7 実績	R8 意向		
滋賀	29.3	29.6	↗	0.2	-	0.3	0.3	1.1	1.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.6	0.5	0.3	0.3	7.9	7.6	0.6	0.5	10.0	9.4
京都	13.2	13.1	→	-	-	0.4	0.4	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.3	0.2	0.2	0.2	1.1	1.0
大阪	4.1	4.1	→	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
兵庫	33.6	33.7	→	-	-	0.6	0.6	1.4	1.3	0.2	0.1	0.0	0.0	0.2	0.3	0.9	0.9	1.8	1.8	1.4	1.3	5.1	5.0
奈良	7.8	7.7	→	-	-	0.0	0.0	0.1	0.1	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.2	0.2
和歌山	5.6	5.6	→	-	-	-	-	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
鳥取	12.0	12.0	→	0.1	-	0.0	0.0	0.9	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.4	0.4	0.4	0.1	0.1	0.5	0.4	1.4	1.4
島根	16.1	16.2	→	0.0	-	0.1	0.1	1.2	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.4	0.7	0.6	0.2	0.2	0.4	0.4	1.9	1.7
岡山	28.1	28.1	→	0.0	0.0	0.1	0.1	1.0	1.0	0.2	0.2	0.0	0.0	0.3	0.3	0.5	0.5	0.9	0.9	0.7	0.7	2.7	2.7
広島	20.2	20.0	→	0.0	-	0.2	0.2	0.9	0.8	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.6	0.6	0.3	0.3	0.2	0.2	1.5	1.4
山口	16.3	16.5	↗	-	-	0.8	0.8	1.1	1.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.6	0.5	0.4	0.4	0.7	0.8	0.6	0.6	3.3	3.2

注1：主食用米の7年産実績は、統計部公表の主食用米の作付面積。

2：主食用米、備蓄米及び戦略作物の8年産意向は、地方農政局等が1月末時点で都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（麦・大豆は基幹作の面積）。

3：主食用米の対前年実績は、7年産実績と比較し、「↗：増加傾向」（1%超増加）、「→：前年並み」（増減1%以内）、「↘：減少傾向」（1%超減少）で分類。

4：備蓄米は、7年産の入札を中止。

5：加工用米及び新規需要米（新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲）の7年産実績は、取組計画の届出面積。

6：麦・大豆の7年産実績は、地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。

7：戦略作物の8年産意向の数値は、7年産実績と比較し、「↗：増加傾向」（1%超増加）、「黒：前年並み」（増減1%以内）、「↘：減少傾向」（1%超減少）で分類。

水田における作付意向について（令和8年産第1回中間的取組状況（令和8年1月末時点））⑤

【四国・九州・沖縄】

単位：千ha

都道府県	主食用米			備蓄米		戦略作物																	
						加工用米		新規需要米		新市場開拓用米 (輸出用米等)		米粉用米		飼料用米		WCS用稲 (稲発酵粗飼料用稲)		麦		大豆		合計	
	R7実績	R8意向	対前年実績	R6実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向
徳島	10.3	10.3	→	0.1	-	0.0	0.0	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.4
香川	10.1	10.1	→	-	-	0.0	0.0	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.3	0.3	1.1	1.1	0.0	0.0	1.6	1.5
愛媛	12.7	12.8	→	-	-	0.0	0.0	0.4	0.3	-	-	0.0	0.0	0.2	0.1	0.2	0.2	0.4	0.4	0.3	0.2	1.1	1.0
高知	10.5	10.5	→	0.0	-	0.1	0.1	0.8	0.8	-	-	0.0	0.0	0.5	0.5	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	1.0
福岡	34.5	34.8	→	0.0	-	0.2	0.2	3.1	3.2	0.0	0.0	0.2	0.3	0.9	1.0	2.0	2.0	1.2	1.2	6.7	6.9	11.2	11.5
佐賀	23.7	23.9	→	-	-	0.3	0.2	2.2	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.4	1.8	1.7	0.2	0.3	6.3	6.2	9.0	8.8
長崎	9.5	9.5	→	-	-	0.0	0.0	1.5	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	1.4	1.4	0.1	0.1	0.2	0.2	1.8	1.7
熊本	31.9	31.8	→	-	-	0.3	0.3	8.9	8.9	0.0	0.0	0.1	0.1	0.6	0.6	8.2	8.2	0.6	0.6	1.7	1.7	11.6	11.6
大分	18.9	18.9	→	0.0	-	0.1	0.1	3.3	3.3	0.0	0.0	0.1	0.1	1.0	1.0	2.3	2.3	0.6	0.6	0.8	0.8	4.9	4.8
宮崎	13.5	13.4	→	-	-	1.5	1.6	7.6	7.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.6	6.8	6.7	0.0	0.0	0.2	0.2	9.3	9.2
鹿児島	17.6	17.6	→	-	-	0.9	0.9	3.8	3.8	-	-	0.0	0.0	0.3	0.3	3.4	3.4	0.1	0.1	0.2	0.2	5.0	4.9
沖縄	0.6	0.6	→	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	0.1	0.1

- 注1：主食用米の7年産実績は、統計部公表の主食用米の作付面積。
 2：主食用米、備蓄米及び戦略作物の8年産意向は、地方農政局等が1月末時点で都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（麦・大豆は基幹作の面積）。
 3：主食用米の対前年実績は、7年産実績と比較し、「↑：増加傾向」（1%超増加）、「→：前年並み」（増減1%以内）、「↓：減少傾向」（1%超減少）で分類。
 4：備蓄米は、7年産の入札を中止。
 5：加工用米及び新規需要米（新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲）の7年産実績は、取組計画の届出面積。
 6：麦・大豆の7年産実績は、地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。
 7：戦略作物の8年産意向の数値は、7年産実績と比較し、「↑：増加傾向」（1%超増加）、「黒：前年並み」（増減1%以内）、「↓：減少傾向」（1%超減少）で分類。

令和7/8年の主食用米等の需要見通しの算出（見直し）【精米ベースで算出】

- 1人当たり消費量は、直近5年ではマイナス・トレンドとなっておらず、直近の需要の動向を反映するため、直近5年の平均値と最大値の幅を持って設定。
- その上で、人口推計やインバウンド需要を考慮して、需要見通しを幅を持って設定。

【令和7/8年の主食用米等の需要見通しの算出方法】

I 1人当たり消費量（精米ベース）の算出

- ① 直近5年（令和2/3年～6/7年）の需要実績（精米ベース）から当該年のインバウンド需要を減じた上で、当該年の人口で除し、各年の1人当たり消費量（精米ベース）を算出

※需要実績にはインバウンド需要が含まれているため、これを減じた上で、人口で除し、日本在住者の1人当たり消費量を算定

$$(\text{需要実績} - \text{インバウンド需要}) \div \text{人口} = \text{1人当たり消費量}$$

- ② ①で算出した直近5年の1人当たり消費量の平均値と最大値の幅をもって設定

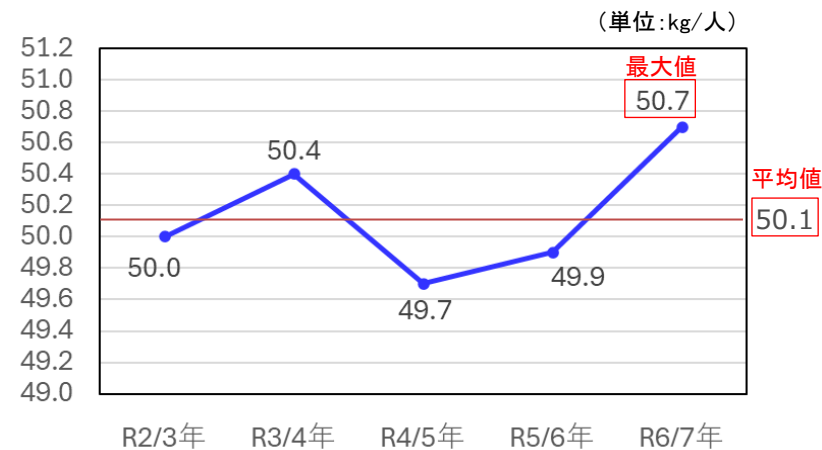
II 需要見通し（精米・玄米ベース）の算出

- ① Iの②で算出した「平均値」と「最大値」について、令和7年の人口（推計値）を乗じた上で、令和7/8年のインバウンド需要（試算）を加え、需要見通しを算定

$$(\text{1人当たり消費量} \times \text{人口推計}) + \text{インバウンド需要(試算)} = \text{需要見通し}$$

- ② ①で算出した精米ベースの需要量見通しについて、精米歩留りの直近5年の実績ベースの幅（直近5年平均値、直近5年最低値）をもって玄米換算

(参考1) 1人当たり消費量（精米ベース）の推移



(参考2) 訪日外国人による米の需要量の推移

(単位: 万ト)

R2/3	R3/4	R4/5	R5/6	R6/7	R7/8 (推計値)
0.0	0.1	1.9	5.1	5.7	6.1

(参考3) 精米歩留りの推移

(単位: %)

2年産	3年産	4年産	5年産	6年産	5年平均
89.7	90.3	90.0	88.6	89.2	89.6

令和7/8年の主食用米等の需要見通しの算出

【需要見通し算出に当たっての変更点】

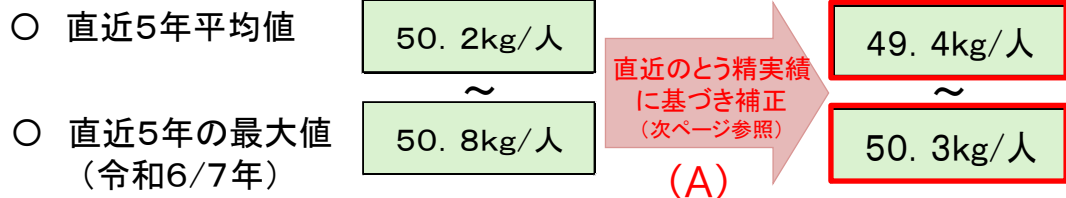
- 需要量について、最新のとう精数量、人口、精米歩留りの値を踏まえ更新
 - ① 1人当たり消費量について、直近のとう精数量の実績に基づき補正 (A)
 - ② 令和7年人口について、令和7年9月概算値から同年10月概算値に更新 (B)
 - ③ 7年産の精米歩留りについて、令和8年1月時点の速報値(88.8%)に更新 (C)

【令和7/8年の主食用米等の需要見通しの算出方法】

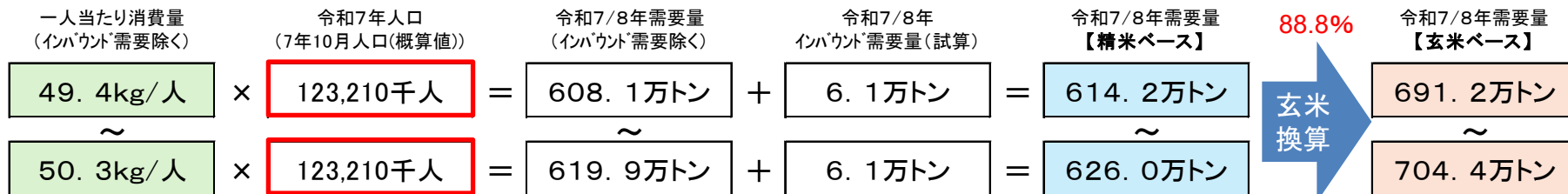
① 1人当たり消費量(精米ベース)

【算出方法】

$$\left(\text{需要実績} - \text{インバウンド需要量(試算)} \right) \div \text{人口} = \text{一人当たり消費量(インバウンド需要除く)}$$



② 令和7/8年需要量(玄米ベース)



(B) R7年9月(概算)→10月(概算)
人口へ更新(+40千人)

(C) 7年産歩留りについて、直近5年最低~平均値
(88.6~89.6%)から8年1月時点(88.8%)に更新

(参考1)一人当たり消費量(精米)の推移

	需要実績 (万トン)		インバウンド 需要 (万精米トン) ②	人口 (千人) ③	1人当たり 消費量 (精米kg) (①-②)÷③
	玄米	精米 ①			
R2/3年	704.0	631.3	0.0	126,146	50.0
R3/4年	701.5	632.8	0.1	125,502	50.4
R4/5年	691.1	622.3	1.9	124,947	49.7
R5/6年	704.9	626.2	5.1	124,352	49.9
R6/7年	712.7	635.0	5.7	123,802	50.8
				5年平均	50.2

(参考2)精米歩留りの推移

2年産	3年産	4年産	5年産	6年産	5年平均	7年産
89.7	90.3	90.0	88.6	89.2	89.6	88.8

(単位: %)

※7年産については、令和8年1月時点での速報値

(参考)7/8年需要量(玄米ベース)について、10月指針(697.4~711.3万トン)からの減少量(▲7~▲6万トン)の内訳
(A)直近のとう精実績を踏まえた一人当たり消費量の補正による影響(▲11~▲6万トン)、(B)人口増加による影響(+0.2万トン)、(C)精米歩留りの更新による影響(▲1~+5万トン)

とう精数量実績に基づく、R7/8年の1人当たり消費量の補正

- 令和7/8年の7～1月のとう精実績は、3カ年平均値の同月分と比べて約10万玄米トン減少（▲5.04%）。
- 2月以降について、3か年最大（令和5/6年）又は3か年平均を置いて推計した年間見込数量を踏まえ、1人当たり消費量（精米ベース）を補正すると、最大値は50.3kg/人、平均値は49.4kg/人。

○とう精数量実績の推移（千トン（玄米））

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	7～1月	2月	3月	4月	5月	6月	年計
令和4/5年	272.7	280.1	280.3	278.6	270.0	290.1	252.9	1,924.7	260.8	290.3	291.2	291.0	289.7	3,347.7
令和5/6年	282.5	291.5	285.3	288.9	278.8	299.8	268.1	1,994.9	279.7	295.9	310.1	302.8	293.8	3,477.3
令和6/7年	301.7	308.3	278.9	278.7	268.9	287.2	261.7	1,985.3	258.5	271.0	303.1	288.6	291.5	3,398.0
3カ年平均	285.6	293.3	281.5	282.1	272.6	292.4	260.9	1,968.3	266.3	285.7	301.5	294.1	291.7	3,407.6
令和7/8年	305.6	271.8	263.0	277.7	243.3	268.4	239.2	1,869.0 (▲5.04%)	① 279.7 ② 266.3	295.9 285.7	310.1 301.5	302.8 294.1	293.8 291.7	▲1.65% ▲2.91% 3,351.4 3,308.3

注 とう精数量は、報告のあった精米事業者のうち、前回調査（本年6月）と比較可能な398の精米事業者の実績を集計した速報値。

2～6月は、① 3か年最大(5/6年)、
② 3か年平均を置いて推計

① 2,979千精米トン
② 2,941千精米トン

③ 3,044千精米トン

7年産
精米歩留り
(1月時点)
88.8%

○1人当たり消費量（精米ベース）の補正

<直近5年最大値（50.8kg/人）の補正>

直近3か年の全体の需要実績の平均（627.8万精米トン）に占める
R7/8年のとう精数量を加味した全体の需要見込み（621.4万精米トン※1）の割合

$$\frac{621.4 \text{万精米トン}}{627.8 \text{万精米トン}} = 98.98\% \quad \Rightarrow \quad 50.8 \text{kg} \times 98.98\% = 50.3 \text{kg}$$

<直近5年平均値（50.2kg/人）の補正>

直近3か年の全体の需要実績の平均（627.8万精米トン）に占める
R7/8年のとう精数量を加味した全体の需要見込み（617.6万精米トン※2）の割合

$$\frac{617.6 \text{万精米トン}}{627.8 \text{万精米トン}} = 98.37\% \quad \Rightarrow \quad 50.2 \text{kg} \times 98.37\% = 49.4 \text{kg}$$

【7/8年需要量（玄米ベース）の見通し】

<最大、平均値の補正> **691～704万玄米トン**
49.4～50.3kg/人

OR7/8年のとう精数量を加味した全体の需要見込み(精米ベース)【推計】

- ・調査対象者のR7/8年とう精見込み（①297.9万トン、②294.1万トン、）
- ・直近3か年の全体の需要実績の平均（627.8万トン）から直近3か年のとう精実績の平均（③304.4万トン）を減じた323.5万トン(④)

※1 ①297.9万トン + ④323.5万トン = 621.4万トン
※2 ②294.1万トン + ④323.5万トン = 617.6万トン

精米事業者のとう精数量実績調査結果（精米歩留り）について

- 令和7年産の精米歩留り（令和7年7月～8年1月）は、88.8%。
- 令和7年産の精米歩留りを令和2～6年産平均と比較すると0.8%減少しており、主食用米等生産量747万玄米トンから生産される精米量は5万精米トン程度減少（精米するための玄米の必要量は6万玄米トン程度増加）することが見込まれる。

○令和7年産の精米歩留り（今回の調査結果）

								(千トン)	
	令和7年7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和8年1月	計	
玄米使用数量 【A】	2	19	54	109	131	169	162	647	
製品出来高数量 【B】	2	17	48	97	117	150	144	574	
精米歩留り 【B/A】	88.7%	88.4%	88.7%	88.9%	89.0%	88.8%	88.7%	88.8%	

注) とう精数量実績（精米歩留り）は、398の精米事業者の実績を集計した速報値。

（参考）過去（令和2～6年産）の精米歩留り（前回の調査結果）

2年産	3年産	4年産	5年産	6年産	5年平均
89.7%	90.3%	90.0%	88.6%	89.2%	89.6%

注) 令和7年6月末時点の令和2～6年産の精米歩留りについて、43事業者（大手卸売業者10社、地方卸売業者23社、米穀店10社）を対象に実施した調査結果。

令和8/9年の主食用米等の需要見通しの算出

【需要見通し算出に当たっての変更点】

令和7/8年需要見通しの算定の考え方を踏襲して設定

- ① 令和8年人口（推計値）について、令和7年10月人口（概算値）を踏まえ、推計値を更新 …… (A)
- ② 精米歩留りについて、7年産の精米歩留り（令和8年1月時点速報値：88.8%）を踏まえ、直近5年平均値を更新 …… (B)

【令和8/9年の主食用米等の需要見通しの算出方法】

I 1人当たり消費量（精米ベース）

【算出方法】

$$\left(\text{需要実績} - \text{インバウンド需要量 (試算)} \right) \div \text{人口} = \text{一人当たり消費量 (インバウンド需要除く)}$$

①直近5年平均値

50.2kg/人

②直近5年の最大値（令和6/7年）

50.8kg/人

II 令和8/9年需要量（玄米ベース）

一人当たり消費量 (インバウンド需要除く)	令和8年人口 (推計値)	令和8/9年需要量 (インバウンド需要除く)	+	令和8/9年 インバウンド需要量(試算)	=	令和8/9年需要量 【 精米ベース 】	→	令和8/9年需要量 【 玄米ベース 】
50.2kg/人	122,609千人	615.2万トン	+	6.6万トン	=	621.8万トン	89.4%	695.7万トン
50.8kg/人	122,609千人	623.3万トン	+	6.6万トン	=	629.9万トン	88.6%	710.9万トン

⇨ 玄米換算

(A) R7年10月(概算)人口を踏まえ推計値を更新(+40千人)

(B) 7年産歩留り(8年1月時点)を踏まえ、直近5年平均値を89.6%→89.4%へ更新

(参考)8/9年需要量(玄米ベース)について、10月指針(694.1~710.7万トン)からの増加量(+0.2~1.6万トン)の内訳

(A) 人口増加による影響(+0.2万トン)、(B) 精米歩留りの更新による影響(0~+1.4万トン)

(参考1)一人当たり消費量(精米)の推移

	需要実績 (万トン)		インバウンド 需要 (万精米トン) ②	人口 (千人) ③	1人当たり 消費量 (精米kg) (①-②)÷③
	玄米	精米 ①			
R2/3年	704.0	631.3	0.0	126,146	50.0
R3/4年	701.5	632.8	0.1	125,502	50.4
R4/5年	691.1	622.3	1.9	124,947	49.7
R5/6年	704.9	626.2	5.1	124,352	49.9
R6/7年	712.7	635.0	5.7	123,802	50.8
5年平均					50.2

(参考2) 精米歩留りの推移

(単位: %)

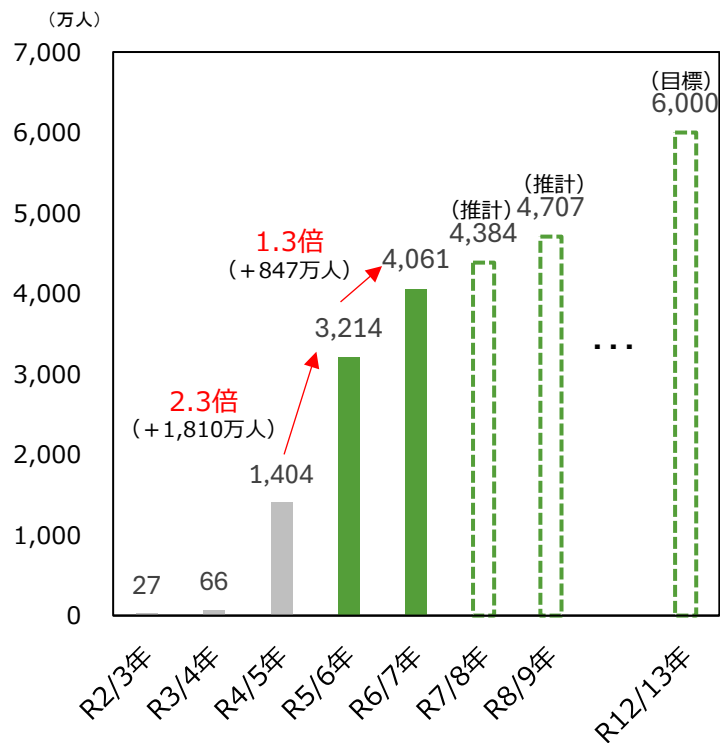
3年産	4年産	5年産	6年産	7年産	5年平均
90.3	90.0	88.6	89.2	88.8	89.4

※7年産については、令和8年1月時点での速報値

インバウンド需要の増加

○ コロナ禍で減少した訪日外客数が、近年は大きく増加。

訪日外客数の推移



出典：日本政府観光局「訪日外客統計」

インバウンド需要の試算

	訪日外国人数	平均泊数 (注3)	訪日外国人 当たり米食回数 (注5)	訪日外国人による 米の需要量 (注6) (精米ベース) (玄米換算)	
R2/3年	27万人	8.8泊 (注4)	17.7回	0.0万トン	0.0万トン
R3/4年	66万人	8.8泊 (注4)	17.7回	0.1万トン	0.1万トン
R4/5年	1,404万人	8.8泊 (注4)	17.7回	1.9万トン	2.1万トン
R5/6年	3,214万人	10.1泊	20.3回	5.1万トン	5.6万トン
R6/7年	4,061万人 (注1)	9.0泊	18.0回	5.7万トン	6.3万トン
R7/8年 (推計)	4,384万人 (注2)	9.0泊	18.0回	6.1万トン	6.8万トン
R8/9年 (推計)	4,707万人 (注2)	9.0泊	18.0回	6.6万トン	7.3万トン
R12/13年 (推計)	6,000万人 (注2)	9.0泊	18.0回	8.4万トン	9.3万トン

【参考】
現在のトレンドで
毎年847万人増加
する場合

訪日 外国人 数	需要量 (精米 ベース)
3,214 万人	5.1 万トン
4,061 万人	5.7 万トン
4,908 万人	6.9 万トン
5,754 万人	8.1 万トン
9,142 万人	12.8 万トン

+847
万人
(4年分)
+3,388
万人
(4年分)

出典：観光庁「インバウンド消費動向調査」(旧：訪日外国人消費動向調査)

注1：2025年5月と2025年6月は観光庁が公表している速報値。

注2：政府目標(2030年：6,000万人)に向かって直線的に増加すると仮定して推計

注3：平均泊数は、暦年の数値で公表されているため、R4/5年はR4年、R5/6年はR5年、R6/7年はR6年の数値など、米穀年度にあてはめて試算している。

注4：令和2～4年の訪日外国人消費動向調査は長期滞在者に結果が偏っていることから、直近で代替となる令和元年のデータを使用

注5：1泊当たり2回と仮定

注6：1回当たり78g(FAO供給熱量データに基づき推定)として推計。玄米換算は歩留りを一律90.6%で計算

民間貿易による輸入状況（枠外輸入）

- 国家貿易以外のコメの輸入（枠外輸入）には、高水準の枠外関税（341円/kg）を設定。貿易統計によると、毎年、インド産やタイ産の長粒種など、600～800トン程度が輸入。
- 2024～2025年度は、国内の米価の高止まりを受けて、S B S輸入の年間上限10万トン全量が落札され、S B S輸入で落札できなかった事業者等が、枠外関税を支払って主食用米を輸入する動きが拡大。
- 輸入数量について、**2026年1月は4,918トン、2025年度4月～1月の累計は99,569トン**。このうち、**米国産米の輸入が約8割**。2025年度は2024年度と比べて、**全体は約30倍、米国は約190倍に増加**。

<会計年度（4月～翌3月）ごとの輸入数量>

2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2025年度 (令和7年度)
623トン (173トン)	805トン (176トン)	871トン (201トン)	773トン (135トン)	730トン (59トン)	3,011トン (416トン)	99,569トン (78,783トン)

<月別の輸入数量>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4～3月 合計	1か月 あたり 平均
2024年度	13 (0)	115 (19)	58 (19)	124 (0)	64 (21)	41 (0)	93 (19)	202 (19)	118 (21)	414 (0)	489 (39)	1,280 (240)	3,011 (416)	251 (35)
2025年度	6,838 (5,499)	10,607 (7,894)	20,979 (15,945)	26,397 (22,983)	15,168 (12,951)	6,534 (5,442)	1,475 (215)	2,787 (1,996)	3,866 (2,415)	4,918 (3,443)	-	-	99,569 (78,783)	9,957 (7,878)

※ 括弧内は米国からの輸入数量

資料：財務省「貿易統計」

注1：枠外関税を支払って、民間貿易により輸入されたコメ（もみ、玄米、精米、砕米の合計）の数量

注2：単位は実トン

SBS米の輸入状況

- SBS米は、年間10万トンを上限に輸入され、主に主食用に流通。毎年度、国産米を政府備蓄用に10万トン以上買い入れることにより、国産米の需給に影響を与えないよう措置。
- 国産米の需給が緩和すると、SBS米の需要が弱まり、国産米の需給が引き締まると、SBS米の需要が強まる傾向。

